

第29回

あなたの相棒



人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野高校写真部の皆さんと一緒に、そんな誰かのかけがえのない「相棒」を紹介します。第29回目は、阿保三丁目にあり、保育園から老人ホームまで、さまざまな年代の人にサービスを提供している社会福祉法人聖徳会 理事長の岩田敏郎さんです。

人と人が紡いでいく歴史

足踏みをする音とにぎやかな掛け声。部屋の中では十人超の人が楽しそうに運動をしている。ここは「社会福祉法人聖徳会」が運営する「健康スタジオまつばら」である。頭と体を同時に使って認知症を予防する「コグニサイズ」が毎週火曜日に行われている。参加者の皆さんに元気の秘訣を伺うと、まず「友達！」という言葉が返ってきた。「友達と話すのが一番体にいいですね」「皆でワイワイ言いながらやると、楽しく運動の苦しさを忘れられる」と話してくださいました。「健康スタジオまつばら」は体と頭の健康だけでなく、心の健康も支えていると感じた。

次に特別養護老人ホームである「大阪老人ホーム」へと向かうと、見えてきたのはホテルのような外観の建物。中に入ると内装もきれいだし、中庭なんかもあって、抱いていた「老人ホーム」のイメージとは全然違う。壁には大阪養老院（大阪老人ホームの前身）の古い写真が掛けであった。入居者の坂本さんにホームでの生活についてお尋ねすると「昔からやっている活け花を楽しみにしています。私の元気の秘訣ですね」と教えてくださった。活け花は月一回行われていて、他にも夏祭り

などの行事があり、どれも楽しまれているようだった。

聖徳会三代目理事長である敏郎さんに、ホテルのような美しい建物にした理由を尋ねると「利用者の人に旅館にいるような心地いい気分を味わってもらうためです」とのこと。敏郎さんが目標としている老人ホームの在り方は「自分がここで生活してもいいなと思える場所を提供すること」だそうだ。敏郎さん自身も実は、昔この場所で生まれ、育ててもらった経験をお持ちだった。「恩返しのためでやっているだけです」と、少し恥ずかしそうにおっしゃったのが印象深かった。

※今回広報まつばらに載らなかった写真部が撮影した写真は市ホームページで見ることができます。



です。もしどちらの相棒もいなかったら、今の聖徳会はありません。そしてこれからも相棒と呼べる存在は増えていきます

明治35年からはじまった聖徳会、福祉の需要が大きくなっていく中、その歴史は未来に続いてゆく。

文 北村朱理（二年）